桜まつり開催

とき 4月9日(土)・10日(日) 午前10時から
場所 ふれあい坂田池公園

当日は、商工会をはじめ農業関係者、清水の里、日曜マーケットによる青空市、フリーマーケットなどがあります。

フリーマーケット出店者を3月31日(木)まで募集しています。

※問い合わせ先
産業振興課内
横芝町観光協会事務局
☎82―8826

文芸

俳句

横芝俳句栗江会

蜆とる穴場の水の冷たさよ
合併の調印式や春うらら　桑名　大行

野焼して草木の眠り醒ますかな
霞かや野焼の煙山隠す　長谷川正子

太古より蜆食すや倭人
濃い味を好む老父や蜆汁　今関満喜子

夫黙止何を思ふや蜆汁
遠野焼農夫の肩に夕日さす　福田　幸子

スーパーの蜆の小さき蜆汁
初任給利根の蜆を買ひ来たり　藤代　ゆう

県知事も裃似合い豆を撒く
絵の如く銚子灯台春霞む　若梅あやめ

遠目にも畑焼く母の丸き背な
年金の余生いとしむ蜆汁　選者　山口　一秋

ひこばえ俳句会（互選句）

靴音の軽くなりけり日脚のぶ　浅野　茂子

暖房のかまえもせずに冬籠　池田　逸子

柔らかき水音に洗ふ春菜かな　伊藤　敬子

分子式ダイヤと同じ炭飾る　川島　孝夫

寒紅梅匂ふ忠敬生誕地　向後　寛

春なれや母子山羊追ふ大藁家　佐瀬　輝夫

車窓打つ音かわりけり霙かな　宍倉　道子

寒牡丹菰の編目に陽を集め　布施　和代

七草やいわれも知らぬ現代っ子　若梅あやめ

葉牡丹の紫紺の渦の緊りけり　渡部　和秋

短歌

災害のつぎて起りし年も過ぎ
吾は傘寿の年を迎へつ　桑名　大行

凍てつきて蛇口より水の出なき朝
汲みて置きたる水を思へり　永藤　滋

池の面に映る夕日を揺らしつつ
鍬を洗へり畑より帰り　萩原　信一

靴底にはつかな抵抗感じつつ
露に濡れたる落葉踏みゆく　八角　三枝

留守番は犬の散歩と猫の世話
吾が家ただいま七匹住まふ　吉岡　信子

大風に振り落されし柚子の実は
木下明るき迄にまろべり　宇井　ちい

明けてゆく空の三日月まづ映し
けふ快晴とテレビは伝ふ　秋葉　悦子

餅をつく杵に合はせてホームなる
老い等声あぐ掛声揃へ　池田　春江

亡き母と同じ年なる歌の友
海へ没る日に感声あぐる　西山満里子

上げ潮の寄せくる白き大波に
インド洋津波ふとも思へり　芹川　初子

シベリヤより子育てすると三千キロ
白鳥は来ぬ本埜の村に　田崎　尚美

先人の詣でし跡を辿りつつ
七福神巡る総の七里を　押尾　輝子

娘は孫の携帯電話の使ひ過ぎ
叱りゐるなり請求書手に　鈴木　やす

群をなし田の面に降りし山鳩は
耕やす後につきて啄む　長谷川正子

電灯のあかりさやけき船いくつ
黒く波打つ利根川をゆく　上総　晴子

電線にほぼ等間隔並びゐる
三十五羽の椋鳥の群　佐瀬　初音

古里の野に摘みて来し蕗の薹
味噌に和へゆく香り立たせて　選者　斎藤つね子